

議会からの提言書

令和7年12月24日

小諸市議会

第19次市議会では、前期に引き続き後期においても、議会基本条例第11条に規定されている「政策立案及び政策提言」を行う市議会を目指しております。

行政視察においては、委員会活動の一環として、所管する事務に関する様々な行政課題に対応するため、他の自治体等の先進的な取組を調査することにより、小諸市における課題解決や施策に反映させる目的で実施し、行政視察報告会を開催して完結しておりましたが、第19次市議会がスタートしてからは、行政視察報告書の成果を精査し、本市発展の一助としていただくよう、政策提言を取りまとめ提出させていただいております。

令和7年度の行政視察報告会は、11月4日に開催し、大勢の職員にご参加をいただき、情報共有をさせていただきました。本市議会では今年度も、添付しました「令和7年度小諸市議会行政視察報告書」を作成したことから、次のとおり政策提言を取りまとめましたので提出いたします。

なお、今後も常任委員会での行政視察終了後には、政策提言書の提出を実施していきたいと考えておりますので、次年度の行政視察の計画を立てる年度当初頃までには、提言書に対する所見や検討結果、検討後に進捗しているものがあればその状況について、お手数でもご回答をいただきますようお願いします。

令和7年12月24日

小諸市議会

議長 山浦利夫



◇ 目 次 ◇

- (1) 政策提言 子どもから若者までの総合的な支援について
総務文教委員会
- (2) 政策提言 高齢者支援事業について
市民福祉委員会
- (3) 政策提言 ワインを活かした観光振興について
産業建設委員会

* 添付資料:令和7年度小諸市議会行政視察報告書

1 政策提言(総務文教委員会)

「子どもから若者までの総合的な支援について」

豊橋市は、ネグレクトによる乳幼児死亡事例等を背景として、こども若者支援センター「ココエール」を設置し、妊娠・出産から子育て、自立に至るまでの切れ目ない相談支援体制、要保護児童・ケアリーバーを含む子ども・若者への総合的な支援を行う仕組みを構築しています。

人口増を目標に掲げる本市にとっても、妊娠婦から子どもや若者を市全体で支える体制づくりは重要です。市民福祉委員会の所管と重なる部分もありますが、総務文教委員会としても重要な事項であると捉えているため、以下の政策について提言します。

提言内容

1 こども家庭センターによる相談支援体制の強化

- ① 妊娠期から18歳までに加え、自立期までを見通した支援を検討し、対象年齢や内容等の充実を図ること。
- ② 平日夜間・休日相談等、利用しやすい体制づくりを検討すること。
- ③ 相談内容の複雑化等に対応するため、臨床心理士等、有資格者の配置を検討すること。
- ④ 窓口業務、訪問支援等への民間支援団体導入を検討すること。

2 ケアリーバー(施設退所児等)支援

児童相談所・施設との連携により、市内在住のケアリーバーの状況を把握し、既存の若者支援施策等と連携して、退所後の就学・就労・居住・家計管理・孤立防止等を継続的に支援すること。

3 ヤングケアラー支援と認知度向上の取組

- ① 小中学校を対象に、ヤングケアラーの気づきを促すアンケートを実施し、自覚のないヤングケアラーを含め、支援を必要とする児童・生徒の把握に努めること。
- ② 保護者向けリーフレット、学校等関係機関との研修会での周知等により、ヤングケアラーの認知度を高めること。
- ③ ヤングケアラー向けに、市が費用を負担し、洗濯・掃除・料理等の日常家事を代行・補助する仕組みを検討すること。

2 政策提言(市民福祉委員会)

「高齢者支援事業について」

小諸市においても、高齢者が行方不明となる事案が非常に多く発生している。行方不明者が発生した場合、迅速な初動対応が極めて重要となり、小諸市では、行方不明者が発生した場合、防災行政無線放送でお知らせをしているほか、日頃から高齢者の見守り活動に市民や企業の団体からご協力をいただいている。

高齢者支援に関する課題は、行方不明になった際、迅速な関係機関との連携が大事である。つくば市では、認知症またはその疑いにより行方不明になるおそれの高齢者等の情報を事前登録し、関係機関と共有し、行方不明の早期発見・保護に繋げている。

小諸市では、見守り反射ステッカーを貼ることにより地域や事業所が見守りを行っているが、ステッカーにバーコードを導入することにより、さらに行方不明者の早期発見に繋がる。

また、認知症やその疑いがある人が、日常生活での偶発的な事故などにより法律上の損害賠償責任を負った場合に、賠償金を保険で補償する、個人賠償責任保険の取組が、ますます重要である。

小諸市議会は、市内における高齢者支援の課題に対応するため、以下の施策を行政として積極的に進めることを提言します。

提言内容

- 1 認知症高齢者等SOSネットワークの導入
- 2 二次元バーコード付きの保護支援シールを導入
- 3 行方不明者情報や認知症関連イベント情報を市民に配信するシステムを構築
- 4 事前登録やシール申込書のオンライン申請を可能にし、手続きの簡略化を図る
- 5 認知症高齢者個人賠償責任保険の導入

3 政策提言（産業建設委員会）

「ワインを活かした観光振興について」

函館市では、「地域資源×デジタル×若者」という観点で、産学官が連携し、観光・交通・教育・まちづくりを一体化させていた。小諸市もそれぞれの分野では、個別の取組が進んでいるが、これらをつなぐ視点と結びつける仕組みづくりが今後の鍵であると考える。

当市では、ワイン振興は進んではいるものの、単独での観光資源には限界があるので、農村地域の振興、農家所得向上、観光分散化による持続可能性の確保を目的とし、以下の提言をいたします。

提言内容

- 1 ワイン製造やぶどう産地のポテンシャルを活かし、「ワイン×滞在観光」を核とする戦略を明確にすべき。
- 2 食・温泉・歴史・星空などと組み合わせた「小諸らしいワインツーリズム」のコンテンツ造成と、周遊ルートの整備を推進。（「小諸市グリーン・ツーリズム推進会議」設置）
- 3 ワインを地域産業・観光資源として体系的に支援する条例や戦略ビジョンの策定も検討。
- 4 千曲川ワインバレー東地区全域でのツアーの造成